

「もとはこちら」のお話し

№30 今月のテーマ

裸になって



ある日の勉強会の平井先生

善は善を呼び、
悪は悪を呼ぶ。
いっさいのことは
自らが呼び込んだこと

(平井謙次著 自己を生かす道より)

北原ゆり筆

少し前、トップニュースほどではないけれど、二番目くらいの扱いで連日のように報道された、ちよつと面白いニュースがありました。日本人なら殆どの人が知っている、あの有名なグループの中の一人が、逮捕されたというのです。

歌にドラマに司会にと大活躍の彼が、一体何をしたというのだろう。ニュースに耳をそばだてると、なんと彼は酒に酔い、真夜中の公園で一人で騒いでいたという。近所の人が「酔っ払いが大声でうるさく騒いでいる」と警察に通報し、駆けつけた警官が目にしたのは、アグラをかけた全裸の男。捕まえようとする、「裸になって何が悪い」と抵抗したのだそうです。

彼は最低の人間?!

ニュースは、彼を採用してコマーシャルを流していた各企業が、放送中止の検討をしていると伝えていきます。

続いて取材ははるばると海を渡り、お隣の国にまで及びました。

彼のファン達の失望の声が、ご丁寧なテロップつきで流れてきます。

「彼がそんな事をしたなんて、信じられない!」。更に更にニュースは続きます。政府の要職にある、とある大臣がこの事件を受けて、

「最低の人間だ! 人間として最も恥ずかしい行為で、断じて許せない」と、大きな目を更に大きくして、内心の怒りをそのままに、吐き捨てるように言っています。これには、さすがの私も驚きました。

なんとまあ・・・。

タレントの行為そのものは、勿論決して褒められたものではありません。しかしそれよりも何よりも、この大臣の行為の方が、私の目にはもつともっと奇異なものにうつりました。

タレントが一人、夜中に酔っ払って公園で裸になって逮捕されたという事に対し、一国の大臣ともあろう者が、感情もあらわにコメントを出すということ自体が、まず驚きです。

そしてまたそのコメントを、公共放送が、数あるニュースの中から選りすぐって全国民に伝えなければならぬ程の、これはそれほど重大な事件なんだろうか。

もっともその大臣は、コメントを出したそのすぐ後で、自分の過激な発言を撤回し、訂正したようです。

間違った、言い過ぎたと反省し、すぐに謝り訂正するという事は、タレントであれ大臣であれ、それはまあ宜しいことなのでしょうが、・・・どっちもどっち、オソマツ至極と笑ってしまいました。

それにしても日本という国の、なんともまあ平和な事。

アマゾンの人達

ところで、少し前ですが、アマゾンの秘境に住む原住民たちの暮らしぶりを、テレビで観たことがあります。

親しみを感じさせる彼ら彼女らはとても日本人に似ていて、中でもその顔つきは、あの著名な日本人の建築家にそっくりです。

相手をじっと見つめる、丸くて澄んだ瞳、きれいな形の鼻、そしてまっすぐな黒い髪。大人も子供もはだしで森じゅうを駆け巡り、力を合わせて獲物をしとめ、皆で分け合って食べています。

殆どの子供は裸で、大人でさえ、ほんの申し訳程度の布切れを身に付けているだけです。



そういう生活を普通のこととして毎日を生きている彼らに向かつて、例えば、「ここから遠く離れた日本という国では、夜の公園で服を着ないでいると、警察が捕まえに来るのです。」

しかもそれがタマタマ有名人だったりしたら、一国の大臣というエライさんが国中の人に向かつて、『そういうヤツは最低の人間だ。断じて許せん』等と言って聞かせるのです」と話したとしたら、一体彼ら彼女らはどういう顔をし、なんと答えることでしょうか。

きつと、「世の中には自分達には理解できない、おかしい世界があるものだ」と怪訝な顔をすることでしょう。

それは人間の作った習慣

私達文明人は、一応公衆の面前では衣服をまとうという事になっています。これは長い歴史の中で私達の知恵がそうさせたのであり、もともと人間としての絶対的な決まり事ではなかったはずです。

その証拠に、原住民は今も公衆の面前で平気で裸でいますし、それは至極当たり前の事であって、罪でも何でもありません。

ですから、「最低の人間だ」などと言って、公衆の面前で罵倒されたり軽蔑されたり、また自由を拘束されるような事はありません。



先のタレントの話に戻りますが、「裸になってなにが悪い」と開き直った彼に対し、一応文明国であるところの日本の警察官は、さて何と答えたのでしょうか。

多分、「酔っ払いが何をほざくか」と、まともに相手にもせず、ばたつかせる手足を捕まえ、さっさと連れ去ったことでしょう。

しかし、もしも彼が酔っ払いなどではなく、真面目に同じ事を聞いたとしたら、さて彼らはどう答えたでしょうか。単に「法律でそう決まっているカラダ」、或いは「公序良俗に反するカラダ」というようなことしか言えないとしたら、これでは彼の問いに対し、真正面から向き合っているとは言えないし、まともな答えになっているとも思えません。

衣服が隠し持つ、最も重要な意味

さて改めて、「裸になってなにが悪い」。

実は昔から「身体髪膚これを父母に受く。あえて毀傷(きしょう)せざるは、これ孝の始めなり」という言葉があります。



私達の体というものは、両親から受け継いだ大切な宝である。だから病気や怪我などをしないように、自分の体を大切にするということが、先ずは親孝行の始まりだという意味です。

親から頂いた大切な体を、激しい風雨や太陽、害虫やほこり、そして木の枝や動物の牙などから身を守るためにも、衣服は私達にとってとても大切なものだったのです。

しかしそれとは別に実はもう一つ、衣服というものにはとても重要な役割があるのです。それは、商品を包む包装紙の役割を見れば一目瞭然ですが、衣服によって私達は、自分自身の価値を高めているということです。

そしてまた、身体を、それも特に種族保存の為の大切な所をむき出しにせず、秘めることによって、特に異性に対し一層のセックスアピールをしているという事です。

このことは聖書の中でも出てきます。アダムとイブがイチジクの葉でソコを隠す事を覚え、そういう人間の知恵を嫌った神さまから、エデンの園を追放されるというあの話です。

あらゆる動物の中で人間だけがソコを隠すという事を知っています。「夜目、遠目、傘の内」とか「マスク男」など言われるのも、実は私達人間は、何かしら見えにくくて奥ゆかしいものに対して想像力をかき立てられ、興味も増し、より一層の魅力を感じる習性があるという事を物語っているわけです。

彼が酒を飲んだからといって、公園で全裸になったということは、そういう意味での人間らしさを失ったという観点からすれば、確かに恥ずかしい事だったと言えるかもしれません。

そして結果として、折角の宝物を公衆の場で陳列してしまい、自分自身の価値や魅力をも損なわせる結果となってしまった彼に対し、どこかしら滑稽さを感じるとともに、本当にお気の毒にと同情せずにはおられません。

ところで少し前、小学生から『なぜ人を殺してはいけないのか?』と訊かれた大人が、絶句して答えられなかったという話が、ひと頃世間を騒がせましたが、彼の場合も、「裸になって何が悪い」と人に向かって言う前に、「人間が服を着る、その意味」を自分自身に問いかけてみるべきだったように思います。

決まり事にも深い意味

このように、「公衆の面前でみだりに裸をさらしてはならない」というような、人間が作り出した様々な規則にも、人間としての深い知恵や洞察が込められているものが沢山あります。

いつも物静かなほほ笑みを絶やさず、誰からも好感を寄せられていた彼が、恥をさらし身をさらけ出してまでも、こういうことを考えるチャンスを私達に与えてくれたのです。

折角の機会です。

私達も、人間が作り出した色々な決まり事について、どうしてこういう決まりが出来たのだろうかという事を、色々と考えてみるのも面白いと思います。

それとともに、私達人間が作り出した法律というものと、自然の法との違いを考えてみるのも、また楽しいのではなからうかと思えます。

自然の法とは、人間が生まれるずっと以前からあり、これからも未来永劫変わることなくあり続ける、絶対の自然

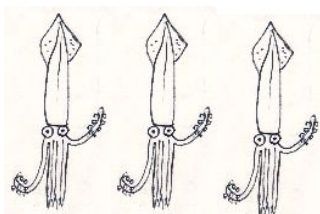
の法則のことです。

すなわちいつの時代であっても、どの場所であっても、そしてまた政治を司る者の考え方等という事にも一切左右されることなく、全ての人、全てのものを平等に貫き、平等に裁く、永遠無限の絶対の自然の法則のことです。

勿論いつもお話させて頂いている「もとはこちら」という事も、この自然法則の中のひとつです。

念のために言えば、もとはこちらとは、自分が体験した事のその全ての原因は、全部自分自身にあるという事です。この事については、自然の摂理ですから、いついかなる場合であっても決して例外はありません。

それは例えば、生まれてきた者は必ず死に、太陽は東から昇り、西の沈む事などと全く同じです。自然の摂理である「もとはこちら」という事については、この様にいかなる場合であっても、また誰に対しても例外は一切ありません。



編集発行人

もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用HP

<http://www.motoha-kochira.com>

mail: data3@motoha-kochira.com